

2019年8月9日
日本船主協会企画部広報室

～菅原汽船 ばら積貨物船の命名・進水式の見学会を開催～

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や海事施設の見学会等を「船ってサイコ～」と題して実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力を入れております。

今般、菅原汽船・日本中小型造船工業会・神田造船所のご協力の下、8月1日（木）に広島県呉市の同造船所にて開催されたばら積貨物船の命名・進水式に、地元の小学生や園児らを招待しました。造船業が盛んな呉市の市民でも、進水式を見学する機会は滅多にないとのことで、一般含め200名を超える参加者がありました。

本船は、命名式にて "BRAVE STAR"と名付けられた後に、船を繋ぎ留めている1本のロープが銀の斧で切断されると、シャンパンのビンが船体で砕け、全長約180m・載貨重量38,000トンの見上げるほどに巨大な船体は手を振った参加者に見送られながら、色とりどりのテープをはためかせながらゆっくりと水面に滑り降り、大海原へと進水していきました。大きな船が水面に滑り降りていく様子はとても感動的で、子供だけでなく大人の皆さんも大歓声をあげるなど、大興奮の様子でした。

呉市の小学校・中学校では予てより、当協会作成DVD“暮らしを支える日本の海運”や日本海事広報協会作成副読本“海運と船と港の役割—呉版”を利用した授業実践や造船所見学を通じた研究発表型授業が行われており、海事産業への関心が強い地域ですが、今回の進水式の感動が深く心に刻まれ四囲環海の我が国における海事産業の重要性のさらなる理解の一助となったと思われまます。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。



(進水する "BRAVE STAR")



(本船を間近で見る子供たち)